

平成24年度さっぽろ子どもの権利の日事業

「子どもまちづくりミーティング」開催!

「札幌市子どもの権利条例(正式名:子どもの最善の利益を実現するための権利条例)」では、毎年11月20日を「さっぽろ子どもの権利の日」と定め、さまざまな事業を実施しています。



今年度は、全体のテーマを「自分の将来の夢」「札幌の理想の未来」とし、11月17日(土)札幌エルプラザにおいて、子どもたちだけによる「子どもまちづくりミーティング」を実施し、100名を超える子どもが参加しました。

当日、午前は市内在住のパフォーマー加賀城匡貴(かがじょうまさき)さんによる映像を交えたワークショップ「ミ・タ・テ」を行い、大型スクリーンに映されたスライドを見たり、会場内にあるライトや床の模様をデジカメで映したのを見ながら、実際見たものを人の顔など別のものに見立てるといったレクリエーションを通して、物事を多面的に捉えることを体験しました。

午後は参加者を6~7名のグループに分け、ジュースやお菓子を飲んだり食べたりとリラックスした雰囲気の中で話し合いを行うワールドカフェ形式による意見交換会を実施しました。参加者は、札幌のまちの好きなど、自分たちが大人になったときの札幌が理想のまちになるため今できることなどを話し合い、それを基に「自分たちの理想の札幌は〇〇」として発表を行いました。

子どもたちからは、「初対面の人やいろいろな活動をしている人と話すことができよかった。」「札幌のまちについて真剣に考えるきっかけになった。」などの感想が寄せられました。



札幌市からの
お知らせ

札幌市では、子どもの権利について、実例をまじえて職員が地域に出向いて説明する出前講座を行っています。

- ・10人くらいのグループ ・市内に会場の確保をお願いします。
- ・1か月くらい前にご連絡ください。

お申込みは下記の、子どもの権利推進課へ

子どもと学び楽しむ施設の情報

◎こどもの劇場 やまびこ座

所在:東区北27条東15丁目 休館日:月曜

時間・料金:公演内容によって異なります。

お問い合わせ:やまびこ座 ☎723-5911

主に土・日や祝日、子どもたちの春・夏・冬休み期間を中心に、人形劇や児童劇などを上演しています。

このほか、人形や舞台のセット等を制作する美術工作室、劇団が打合せや稽古に利用できる研修室などの施設が充実しており、その他にもさまざまな講習会、絵本や紙芝居の読み語りをを行っています。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.syaa.jp/sisetu/gekijou/index.html>

◎こども人形劇場 こぐま座

所在:中央区中島公園1番1号 休館日:月曜

時間・料金:公演内容によって異なります。

お問い合わせ:こぐま座 ☎512-6886

人形劇・腹話術・紙芝居など、市内で活躍しているアマチュアが中心となり、主に毎週土・日及び祝日や、子どもたちの春・夏・冬休み期間に人形劇の公演が行われています。このほか、人形の制作や舞台美術・脚本等を指導する講習会等を開催しています。詳しくは、左記のホームページをご覧ください。

◎図書館デビュー(イベント)

日時:3月3日(日)14:30~15:00 対象:未就学児とその保護者 料金:無料

場所:札幌市中央図書館(中央区南22条西13丁目) お問い合わせ:中央図書館管理課 ☎512-7330

図書館の利用方法やマナーをわかりやすく説明し、貸出券を作ります。読んだ本を記録していく「読書ノート」や初めて図書館に来たことを記念した「デビュー認定証」を差し上げます。「読書ノート」や「デビュー認定証」は各地区図書館でも随時お渡ししています。図書館デビューのイベントは4月以降も実施を予定しています。詳しい日程は、中央図書館ホームページ (<http://www.city.sapporo.jp/toshokan/kids/challenge/debut/debut.html>) 等でご確認ください。

札幌市子ども未来局 子ども育成部 子どもの権利推進課
〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目大通バスセンタービル1号館3階
電話 011-211-2942 ファックス 011-211-2943
ホームページ「子どもの権利のページ」<http://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/>
Eメール kodomo.kenri@city.sapporo.jp



発行



子どもがきらりと輝くまちに

子どもの権利
The Rights of the Child ニュース

第8号

平成25年2月発行

スノーガーデンショー
in もみじの森

札幌市立もみじの森小学校での雪の庭造りの取組を紹介しします。

札幌市では、次代を担う子どもたちに美術体験の機会を提供するため、アーティスト(芸術家)が小学校に3週間ほど滞在し、子どもたちと一緒に美術体験を行う「おとどけアート」事業を行っています。

平成24年度は、3校で実施し、そのうち、この「スノーガーデンショー in もみじの森」は、厚別区にある、もみじの森小学校で行われたもので、学校のグラウンドや通学路などに「スノーガーデン」という雪の庭をつくるものです。

「スノーガーデン」は、雪の上に花や葉の形をしたスタンプを押したり、模様をつけたりすることで、雪の降った庭などを一つの芸術作品とするものです。

学校で活動を行うのは、札幌をはじめ様々な場所でスノーガーデン造りを行っているアーティストの小川智彦(おがわ ともひこ)



さんです。小川さんは、2月1日の全校集会の中で、「転校生」として紹介され、その日以降は、中休みや昼休みの時間などを利用し、花や葉の形、ほかにも雪だるまやアニメのキャラクターなど、いろいろな形をしたスタンプを子どもたちと一緒に作りながら、庭造りを進めました。

イベント全体を盛り上げ、興味を持ってもらうため、「転校生」として紹介されるまでの1週間は、子どもたちには知らせずにグラウンドで作業を進め、ある程度準備が進んだ段階で知らせるという仕掛けをしていましたが、この狙いは大成功で、子どもたちは、「だれか知らない大人が何かしているようだ」と思っていたようで、疑問が解けた全校集会はとても盛り上がったそうです。

取材した2月6日(水)は、子どもと一緒に作業をはじめ3日目とあって、作業に慣れた子どもや初めて参加する子どももおり、最初に小川さんから模様の付け方やスタンプをきれいに押すコツについて説明を受けた後、作業をはじめました。

説明を受け、「簡単そう」と言っ

ていた子ども実際に作業をすると、思っていた以上にうまくはいかずに苦戦していましたが、ふだん体験したことのない作業や真っ白な雪にいろいろな模様が付いていくのが新鮮な様子で、自分が作ったスタンプや専用の器具を使いながら、寒さも忘れて真剣に作業を進めました。

今回学校を訪問した小川さんからは、「子どもたちには、何もないうちに模様ができていく面白さを素直に感じ、ふだんとは違った見方をする感性を磨いてほしい。これから先、何かにつまずいたり、失敗することもあると思うが、アートに触れることは、それまでとは違った方法に気付いたり、立ち直ったりする一つのきっかけになると思う。今回体験したことも何かの時に思い出してくれればいい。」と話してくれました。

最終日である2月12日(火)~15日(金)には、学校だけではなく近隣の公園でもスノーガーデンを作り、地域の方にも公開を予定しています。



★主催★
おとどけアート実行委員会事務局
一般社団法人AISプランニング
(TEL: 596-6726)

孤独なアーティストと懐の深いこどもたち

「アーティスト・イン・スクール」

おとどけアート実行委員会(アーティスト・イン・スクール)
実行委員長 小田井 真美

2003年に日本国内で初めて十勝帯広市で始まったアーティスト・イン・スクール事業は今年で10年目を迎えます。アーティストが一定期間小学校で過ごすようになり、この10年の間にアートやアーティストに対する世間の印象は少しずつ変わって来ているように感じます。

2003年の頃は、アーティスト(=芸術家)は動物園でしか出会えない絶滅危惧種のような、または人魚やカッパのように想像上の生き物、宇宙人のように得体の知れないものと考えられてきました。同時代を生きる人間である「アーティスト」よりも美術館などで「展示されている作品」が長い間教育の中で取り扱われてきたことが原因です。しかし、「アートは生きること」そのものでありアーティストはその「生き様を見せる人」という考え方が押し出されるようになり、物事のプロセスに焦点があたる風潮の中で、アーティストが学校や町にいたことが当たり前な風景となってきました。出来上がった作品の裏に存在する(していた)アーティストを娑婆に連れ出し社会的な存在にしてくれたのは、こどもたちでした。こどもたちに発見され、心地よい距離感を差し出し、厳しくやさしくアーティストの創作活動に寄り添ってくれたこどもたちがいたから、多くのアーティストが「アーティスト・イン・スクール」を通じて成長していくことができました。自らの殻、制度、思い込みに関じ込められたアーティストは、こどもたちの暴力的なまでの勇気によって破壊され自由になれるからです。アーティストにとって評価の対象となる従来のコンテキストからはずれる「こどもたちのいる現場」に身を置くことを選択するのは、アーティストが本能で自分にとって「良いこと」を選ぶことに長けている為です。

このお互いを受け入れた上での破壊と再構築のプロセスを持つ成長のメソッドは、現在の社会、コミュニティに対しても有効に働くのではないかと考えています。特に3.11以降の日本、地域コミュニティを構成する個人個人がこれまでの有り方に少なからず変革を求めているようになってきています。変らざるを得ないのであれば、よりよく成長したい。こどもたちとアーティストは息の合う同志としてお互いを認めあっています。小学校を地域の拠点にして、アーティストとこどもたちが最強コンビとなり「いま」を慈しみ、また問いかけ続けて未来を変えていく地域、社会の大きな力に、アーティスト・イン・スクールはなるのではないのでしょうか。



地域で活躍する子どもたち 児童会館の「子ども運営委員会」

札幌市内にあるすべての児童会館・ミニ児童会館では、子ども運営委員会を設置し、子どもたち自身が、会館利用に当たってのルールづくりや行事の企画などに取り組んでいます。
今回は、現在札幌市が検討を進めている「児童会館のあり方」について、児童会館の子ども運営委員会を中心に行ったワークショップの様子をお知らせします。

札幌市内には、全部で104の児童会館があり、市民ニーズの多様化や施設の老朽化など、さまざまな観点から、その将来のあり方について検討を進めています。

検討に当たっては、市役所内の関係部署や、外部の有識者や専門家などからなる「札幌市次世代育成支援対策推進協議会」に専門部会を設け、協議を行ってまいりましたが、主な利用者であるこどもたちの意見を聞くため、平成24



年11月に3つの児童会館(平岸、北郷、太平)で、『子どもワークショップ』を行いました。

今回は、11月13日(火)に北郷児童会館の様子取材しました。

当日は、小学3~6年生の児童21名を対象に、職員から「児童会館のあり方」の検討内容についての説明を受け、3グループに分かれて、小学校と児童会館が一緒になり、「今の児童会館より便利になる、楽しくなること」「不便になること」「児童会館という名前を変えるとしたら、どんな名前がよいか」というテーマについて、意見交換を行いました。

ふだん自分たちが利用しているということもあって、こどもたちは真剣な様



子で話し合っていました。

ワークショップでは、「小学校と一緒にいければ、外に出ないから、安全に行くことができいいと思う。」「一緒にいると、児童会館だけが使える体育室がなくなり、そうなる困るかも。」といった意見が出ていました。

また、別の名前にするとしたらというテーマを話しあったグループでは、「青空会館」や「未来会館」といった意見が出ていました。

この「児童会館のあり方」については、来年度以降も引き続き検討を進めていく予定です。

★お問い合わせ★
札幌市子ども未来局子ども企画課
(TEL: 211-2982)

札幌市の子ども参加 子ども映画制作 ワークショップ2012

市内の中学1・2年生が、ワークショップを重ね、短編映画を制作し、上映を行っています。

この「子ども映画制作ワークショップ」は、将来札幌市の文化振興を担う子どもに映画制作を通じて、映像文化の担い手として成長し、文化水準の向上を当初の目的として実施されたものであり、公募した中学生が、大人のスタッフのサポートを受けながら、撮影や演技をはじめ企画から上映まですべての映画制作を行うものです。

今年度は、26名の中学生が5月末から約4か月をかけて円山を舞台とした『僕らの興味期限切れの夏』を制作し、全国中学生映画祭への出展など、さま

ざまな機会でも上映を行っています。

ワークショップの講師であり、主催者のNPO法人北海道コミュニティシネマ・札幌の中島洋氏(シアターキノ代表)は、次のように話してくださいました。

「これは単なる映画制作の体験イベントではなく、一つの映画づくりを行っているものである。」

当初から『教育』を目的として行っているわけではないが、数か月間かけて一つのものを作り上げることは我々もそうだし、中学生にとっても大変な作業であり、時にはつらいと感じたこともあったはず。

だからこそ、ワークショップを通して、中学生の成長を非常に感じる。

学校や家庭以外の場所で、ふだんの生活とは違う仲間との関係は、中学生にとっては新鮮で良いと感じるらしく、ワークショップ終了後も連絡を取り合っている子どももかなりいる。

参加者は入れ替わっているが、ノウ

ハウが蓄積されてきており、札幌の映像文化の向上の一つとなっているのではないかと。

ふだんとは違う大人や友人との関係づくりや、企画から制作、発表といった、ものづくりを通じて得た達成感、子どもの豊かな成長発達にとって、貴重な経験となったのではないのでしょうか。

来年は、これまで関わったメンバーを中心に、約1年をかけて長編の制作に挑戦し、平成26年1月の公開を予定しています。制作にあたって、市民サポーターも募集しているので、詳細は以下までお問い合わせください。また、ワークショップ2012の内容はホームページ(<http://movie2011ws.blog.fc2.com/>)をご参照ください。

★お問い合わせ★
NPO法人北海道コミュニティシネマ・札幌
(シアターキノ TEL: 231-9355)

